

# 日本の対レバノン支援

平成30年9月  
在レバノン日本国大使館

## 背景

- レバノンの安定は、中東和平及び地域の安定にとって不可欠。
- 1975年から90年まで続いた内戦及び2006年のイスラエルによるレバノン侵攻により、国内インフラの大部分が崩壊。レバノンの安定を維持するためには、インフラの再建と経済開発が極めて重要。
- シリア危機の長期化に伴い約150万人ものシリア難民がレバノン国内に流入。これにより、インフラへの圧力が増大するとともに、難民を受け入れるレバノンのコミュニティへの社会・経済的な負担が拡大。



## 日本の取組

- 我が国はレバノンの復興のための、①社会における脆弱層への支援、②シリア難民及び難民流入の影響を受けるレバノン・ホストコミュニティへの支援、③社会・経済的に困難な立場にあるパレスチナ難民への支援、を3本柱として対レバノン支援を継続。
- 主な支援分野は、水・衛生、保健医療、教育、住居再建、現金支給、生計向上、社会融和、技能・職業訓練、治安維持(国境管理能力強化等)、地雷除去等多数。
- 2012年以降の我が国の対レバノン支援総額は約1億9000万ドル。

### 【我が国の対レバノン支援概要(2012年以降)】

- 二国間緊急無償資金協力(保健医療, 教育): 820万ドル
- 国連機関等を通じた支援: 1億5940万ドル
- 日本のNGOを通じた支援(JPF事業): 1370万ドル
- 草の根・人間の安全保障無償資金協力: 840万ドル
- JICA研修生としての受け入れ: 約180名(1980年より実施)
- 「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム(JISR): レバノン及びヨルダンから5年間で150名のシリア人を留学生として受け入れ

### 【国連を通じた主要国の対レバノン支援(2017年)】

米国	4億5000万ドル	35%
ドイツ	2億1500万ドル	17%
EU	1億4800万ドル	11%
英国	1億3200万ドル	10%
ノルウェー	7400万ドル	6%
カナダ	5500万ドル	4%
オランダ	5400万ドル	4%
フランス	5200万ドル	4%
日本	2300万ドル	2%
スイス	2200万ドル	2%
計	12億2600万ドル	

【出典: UNRCO】